

読者からの寄稿 <ミスターEのアメリカとエレベーターの情報>

第11回「スパルタ式エレベーター救出訓練」

こんにちは。ミスターEです。岩国基地には現在6社のメーカーのエレベーターが設置されており、乗場戸の解錠方法は8種類あります。今回は岩国基地で消防隊とともにやっている訓練の内容をご紹介しますと思います。「そんなところもあるんだ」というご参考までです。

1. 岩国基地式エレベーター救出訓練

(1) 新設時訓練

新しいエレベーターが取り付けられるたび、また改修工事で新しくなるたび、火災管制運転の方法、乗場戸の開け方のわざを学びます。

(2) 新人ブートキャンプ

ブートキャンプとは新人の兵士が参加する厳しい訓練のことです。それと同じように基地の消防隊に新人が入隊すると、エレベーターのしくみ、パーツの名称などの基礎をみっちり教え込みます。

「かご」や「乗場戸」などを知らなければ、他の隊員と意思疎通ができませんので、用語は重要です。

途中でミニクイズと称したテスト問題をやってもらいます。1回目のテストは4択問題です。2回目は説明文を読んで用語を書いてもらいます。3回目は仕上げで、写真を見てその用語を書いてもらいます。

3回目の問題用紙は、そのまま写真付きの資料として隊員の手元に残るようにしています(写真1)。

これらのテストは一定の間隔をおいておこなうようにしています。そのインターバルは、エビングハウスの忘却曲線を参考に決めており、忘れる頃に出題することにより、長期記憶に刻みこみやすくするよう工夫をしています。

<エレベーター用語ミニクイズ3>

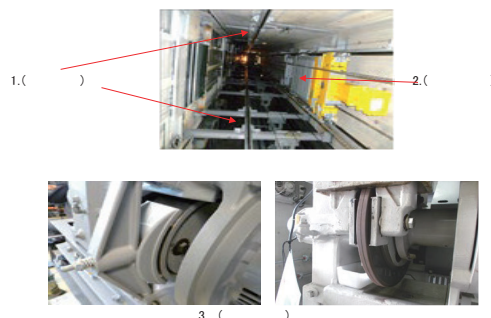


写真1 テスト問題サンプル

(3) おさらい訓練

かぎを使って乗場戸のロックをはずすとひとことでも、簡単ではない戸もあります。これは、現場を変えながら、定期的に訓練を行います。

(4) 大規模実地訓練

年に1回おこなうこの訓練には、消防隊、憲兵隊(軍警察)、病院、緊急コールセンター、およびエレベーター技術員が参加します。

消防隊はエレベーターから乗客を救出するまでを担当します。軍警察はやじ馬の整理など、病院は救出された乗客を救急車まで運んで病院に搬送、コールセンターは各部署への出動要請と閉じ込められた乗客との電話による交信など、そしてエレベーター技術員は救出の安全を確認し、技術的なアドバイスをします。

この訓練に関して参加者に予め知らせておくのは実施する日時だけです。場所や状況は訓練開始の瞬間まで秘密にしています。時間がくると、閉じ込められた乗客役の人が、かご内の非常電話のボタンを押すことにより、訓練がスタートします。これまでにやった主な訓練は：

読者からの寄稿 <<ミスターEのアメリカとエレベーターの情報>>

① 定番の閉じ込め

のりばの床から上下60cm以内にかごが止まっている設定での訓練は、彼らには容易すぎるため、実はやったことがありません。すべて階と階の間で停止したという設定で、救出してもらいます。

② 同時多発閉じ込め

閉じ込めが別々の場所で、同時に発生した設定です。別々に出動してなるべく早く効率的に救出する訓練です。緊急コールセンターのオペレーターの訓練でもあります。

③ ピットからの救出

なんらかの事情で人が昇降路へ転落し、ピット床に横たわっている状況です。最下階の戸を開けてみると、かごのエプロンがじゃまになる位置で止まっていて、そのままでは救出できません。みなさんが救出にあたるとしたらどうするか考えてみてください。

④ 航空管制塔で火事

管制塔はかなりの高低差があり、階段を駆け上がるのは時間がかかりすぎるため、アメリカ仕様の火災管制運転モードに切り替え、エレベーターを使用して、要救助者を助けに行く設定の訓練です。

火災が起きている階よりも下の階でエレベーターを降り、要救助者を探し出し、再びエレベーターを使用して1階まで戻ります。

⑤ 戸のこじあけ、切断

かぎを使っても戸のロックがはずせない状況を想定した訓練です。廃止されるエレベーターを使い、改修工事が始まる直前に、バールで乗場戸を強制的にこじ開けたり、エンジンカッター（燃料を使って高速で丸のこを回転させて切断する工具）で、傾斜した屋根付きの家のような形に戸を切り取ったりする訓練もおこなったことがあります。

想定外のトラブルにあたって当惑することのないよう、いろいろなパターンを考えて訓練をおこなっています。また将来の訓練に備え、さらに追加のシナリオも考えています。

(5) メルマガ

実際に現場に出ておこなう訓練は、それほど頻繁にはできていません。ここ3年に絞っては、年に10回程度の開催ですが、交代勤務をしている消防隊員には参加の都合のつかない人も多く、1人の隊員が受けられる訓練は年平均2~3回くらいではないでしょうか。

そのすき間を埋めるため、メールマガジンを定期的に送っています。前回の訓練で学んだことのまとめだったり、しばらく訓練してないタイプのエレベーターを思い出してもらおう内容だったり、消防署内の掲示板に貼ってもらいます。メルマガの最後には、今いちばんホットなものに絞り、最低一問クイズを出題しています。

(クイズ例題) かごの敷居の直下に垂直に取り付けられている金属製の板のことを、エレベーター業界では何と呼んでいるでしょうか？

読者からの寄稿 <<ミスターEのアメリカとエレベーターの情報>>

2. エスカレーター挟まれ救出

エスカレーターに挟まれる事故は主に、手すり、踏段、スカートガード、くしの終端部分で起こると思っています。その救出方法のヒントとして頭からひねり出したのが、「HHK」救出法です。

HHKは「外す」、「広げる」、「壊す」の頭文字をアルファベットで表したものです。いい思いつき？と思ったのですが、同じアルファベットが続くとか、何かの名称と一致する、例えばUSAとかでなければ忘れやすいですね。そこで強引に今回も50音に持っていき、「は・ひ・ふ」救出法と命名し直しました。

① は=「はずす」は、カバーやプレートなどを取り外すことによって、身体の一部や衣服を抜きやすくする救出方法です。



写真2 手すり終端に手（はずす）



写真3 くしに指（はずす）

② ひ=「ひろげる」はすき間をバールなどの器具で広げることによる方法です。



写真4 スカートガードに衣服（ひろげる）



写真5 脱落したステップに転落（ひろげる）

③ ふ=「ぶっこわす」はハンマーや電動カッター、またはエンジンカッターなどでステップなどを壊すことによる救出方法です。



写真6 シャフトを切断（ぶっこわす）

いつの日か、岩国基地消防隊の経験が、世の中の役に立てる日がくるといいと思っています。そのときを夢見、消防隊のメンバーとともに、救出技術の向上に磨きをかけています。